

## 武蔵大学 FD 活動についてのアンケート集計結果（記述項目）

問 1. 本日の FD 研修会についてお尋ねします。ABC のどれかに○をつけてください。  
また、その他のご意見がございましたらご記入ください。

### A. 本日の研修会には参考になる点が多かった。

⇒具体的にどの点ですか。

#### 好評

- ・他の担当者の授業をお聞きする機会がなかったので、参考になりました。
- ・他学部。他学科での取り組みについて具体的に知ることができた点がよかった。自分の授業にそのまま取り入れるのは難しいがヒントはもらえた。
- ・なかなか知ることのない他学部の事例を学べた点。
- ・他学部の先生の話聞くのは興味深かった。
- ・他学部の例に関して、非常に参考に（思ったよりもずっと）参考になった。
- ・年次・科目別に到達目標を明確に設定した授業運営で、かつ方法のバリエーションを含めて実践例を紹介していただき、参考になった。また、ゼミの学生参加についての仕掛けも共感するところが多く、示された具体的な取り組みも施行してみたい。
- ・例年と違って、3 学部から教員を選出し、具体的に「FD 活動のヒント」になる発表をしていた点、興味を持ってましたし、「FD 概念」的な企画より格段に参加意欲が高められました。
- ・各学部の共通した課題の指摘もあり、学生の積極的な授業参加を促す実践的取り組みとして三者三様に興味深かった。
- ・全員がどの学部にも該当するように工夫して発表してくださった。雰囲気もとてもよかった。

#### 時間配分

- ・各学部の特徴が 3 つの発表から知ることができた。ただ、発表時間はもう少し長くとっても良いのかもしれませんが（一律 15 分など）。一方で、フリーディスカッションはもう少し短くしても良いかと、少なくとも本日は感じられました。

#### 初年次教育

- ・初年次教育については、いつも悩みの種なので、かなり参考になりました。
- ・社会学部の初年次教育のテキストはよくできていると感心した。
- ・初年次教育用の統一教科書の作成。

#### 社会人基礎力

- ・社会人基礎力が具体的に示されていたので、参考になった。
- ・社会人基礎力の keywords の概念共有によって、学生間での批評が可能との指摘。

#### e-learning

- ・e-learning の使用法について。

- ・新しいテクノロジー利用も **face to face interaction** が基礎という明確な学生への態度表明が不可欠であるとの指摘。

#### その他

- ・要望：具体的な学生の反応レポート集みたいなものも添付してくれたらもっと **reality** をもって理解できただろう。
- ・授業の際の悩みは皆同じで、ある程度時間（と労力）をかけて工夫していくしかないということがわかりました。とくに、学生のモチベーションに関して。発表時間は、あと 5 分ずつとってもあきない内容でした。

#### B. あまり参考にならなかった。

⇒どのように改善すべきだと考えられますか。

#### 解決策

- ・問題点→解決策を示してほしい（具体的事例も含め）。

#### C. どちらでもない。

#### 授業の種類

- ・ゼミと講義で大分違うので「授業」といっても一緒にはできないかと思います。
- ・授業の性質が色々なので、ポイントが拡散してなかなか頭がついて行きにくいところがありました。テーマを絞っての発表だとなおよかったかもしれません。

#### 時間配分

- ・時間が短く、もう少し深く **detail** を紹介した方がよかったと思います。
- ・報告時間の短さ、もう少し長く聞きたかった。

#### その他

- ・昨年度の外部講師による講演よりずっと良かった。
- ・アクティヴ・ラーニングについて先進的な具体例を知りたい。
- ・奨学生 **report** 集要約版を作成し、今回のように全教員、主要職員に配布して共有してほしい（学生から **file** で提出させているので、さほど困難ではないはず）
- ・呼びたい講師：中嶋嶺雄氏

問 2. 授業評価アンケートについてお尋ねします。AB のいずれかに○をつけてください。

また、その他ご意見がございましたらご記入ください。

A. 授業評価アンケートの評価結果を授業改善に役立てている。

B. 授業評価アンケートが授業改善に役立っているとは思えない。

その他、授業評価アンケートを改善するための具体的ご意見があればお聞かせください

#### アンケート実施時期

- ・最終授業近くに普段出席しない人が大量にくるので、もう少し早くアンケートを実施するとよいと思います。(問 2. A, 問 3. A)
- ・アンケートをとる時期を少し繰り上げてほしい。ほとんど講義に参加していなかった学生がアンケートの時期に出席して、「内容がわからない」とか「担当者が不親切である」といった評価をすることがかなりある。担当者は反論の機会を与えられず、一方的に批判されるので、公平性を欠いていると思う。(問 2. A, 問 3. C)

#### アンケート回数

- ・前期・後期各一回ずつ、ほとんどすべての科目について評価アンケートをとっているが、学生にとっては、意見を表現するよい機会である一方、面倒なものになってきている。その結果、評価がおざなりになることも多いようである。各科目について (1, 2 がある場合)、前期か後期かに 1 回アンケートをとるだけでもよいのではないか。(問 2. A, 問 3. C)
- ・授業期間中間期でアンケートを実施する科目と学期末との 2 階する科目を各教員 1 科目 choice してもらって比較する。(問 2. A, 問 3. C)

#### アンケート項目

- ・必須の語学科目で「社会的・歴史的出来事や文化的現象の背景や意味がわかった」や「学問の奥深さを実感」したなどの質問に答えられるような授業をすることに難しさを感じます。(問 2. A, 問 3. A)
- ・はっきりいって改善点がアンケートの形式が変わってからよく見えなくなった。聞く項目もくれない。他大のものをみて改善してほしい。(問 2. B, 問 3. C)
- ・学科や学問分野によって、評価すべき点は異なるのではないですか？(問 2. A, 問 3. A)
- ・質問に対する答えが不明確。学生の意見も取り入れて、具体的選択肢を加えてほしい。  
例) 授業速度→速い/遅い等。(問 2. B, 問 3. C)
- ・評価項目を個別教員がカスタマイズできないと個別授業の改善につながらない。(問 2. B, 問 3. C)

#### 私語

- ・参考になっているし、実施した方がよいと思う。項目については、教員の意見も反映してほしい。  
例：私の授業は、学生の意見を取り入れており、静粛とはいえないが、私語の項目で低めの評価となるのは不本意である。などいくつかあります。(問 2. B, 問 3. B)

- ・「授業中に私語はなかった」の欄を設ける。「教員は学生が真剣に勉強する雰囲気作りをしていたか」の欄を設ける。(問 2. A, 問 3. C)
- ・私語が多いというアンケート結果であったが、今年度は非常に静かである。昨年度の成績を厳しくした結果かもしれない、何か直接対応するような別の要因も考えておく必要があるかもしれない。(問 2. A, 問 3. C)
- ・コメントに気をつけている。「私語がなく静かだった」と「私語があったら注意していた」という項目が独立しているのはおかしい。静かな場合、注意する必要がない。さらに「声がよく聞こえた」というのも、上の 2 点と重複しており、意味がない。(問 2. A, 問 3. C)

#### 利用状況

- ・反省材料として参照しています。(問 2. A, 問 3. C)
- ・質問項目の見直し、特に「私語」に関かんするもの。(問 2. A, 問 3. B)
- ・アンケートの集計結果を教員側へ知らせる時期が遅く、後期授業が始まるころに前期の授業評価を知るのが現状ですが、授業に反映させるためには、見直し、反省するための時間が必要かと思われる。(問 2. B, 問 3. B)

#### 分析法

- ・現在は、すべての授業・演習を一緒にして偏差値を出しているが、履修人数規模別に大・中・小と分類すべき。小さな授業、演習の評価が高くなるのは当然。(問 2. A, 問 3. C)

#### その他

- ・講義科目を必修、時間割都合で履修している場合が多い。(問 2. A, 問 3. B)
- ・改善することはなかなか難しいかもしれませんが、学生の中には、真面目にアンケート作成に取り組んでいる者もいると思います。(問 2. A, 問 3. B)

### 問 3. 授業評価アンケートの科目別評価結果公表について

A. 授業評価アンケートの科目別評価結果を学生（学内限定）に公表しても構わない。

B. 授業評価アンケートの科目別評価結果は、いくつかの点を考慮して、学生（学内限定）に公表しても構わない。

⇒考慮すべき点をお書きください

#### 項目の選択

- ・双方（教員・学生）において不利益となる項目の公表は検討すべき。
- ・「単位のとりやすさ」などがアンケート結果から見えてしまうと良くないので、公開する質問項目は十分吟味すべきでは。（問 2. A, 問 3. B）
- ・個々の先生の承諾の上で、（一部を公表しないということを含め）公表した方がよい。（問 2. B, 問 3. B）

#### 教員のコメント

- ・教員のコメントを添えられるようにする。（問 2. B, 問 3. B）

#### アンケート内容の改善

- ・科目別というのは、教員名がでないということか。アンケート内容が改善されれば、公表してもよい。

#### 学生への迎合の危険

- ・必修科目設定や学生に迎合した授業内容、映像を 45 分上映するなど、一種本来の目的とは異なって、満足度の高い結果が出るなどもあり。（問 2. A, 問 3. B）

#### 評価体制

- ・授業は外国語科目、専門講義、ゼミナール、それぞれに違いがあるので、それを前提にして何らかの分けた評価体制がなければ、一律に評価を発表してもあまり意味がないと思います。（問 2. A, 問 3. B）

#### 不誠実な回答の可能性

- ・問 3 で上述のとおり、あまりにも不真面目に答えている回答（推測に過ぎないかもしれませんが）をいかにあつかったらよいか考慮すべきと思います。（問 2. A, 問 3. B）

C. 授業評価アンケートの科目別評価結果の学生への公表には反対である。

⇒学生への授業評価アンケートのフィードバックについて、対案があればご記入ください。

#### 開示方法

- ・公表は、成績申し合わせなどのあった学生が個別に開示請求するスタイルで行うべき。特に必要のない学生にまで開示されることの合理性があるとは思えない。（問 2. B, 問 3. C）
- ・授業の中で担当先生が学生に対して述べる方がよいと思います。（問 2. A, 問 3. C）
- ・評価結果とそれにたいするコメントを教員自身が書き、それを公表する。（問 2. A, 問 3. C）

- ・次年度のシラバスに FD 結果からの改善点を教員が記すことにする。(その項目をシラバスに追加する) (問 2. A, 問 3. C)

#### 開示反対理由

- ・対応可能な改善点については、それに対処することを学生にフィードバックしてもよいと思う(改善方法など)。現在のままのアンケート結果の公表には反対である。学生への公開が業績評価に直接つながる公算が高い。現在の FD アンケートでは教員の努力の全体像がつかめない。(問 2. A, 問 3. C)
- ・公開してもよい項目は吟味選別すべきであるし、少なくとも現行のアンケートは、授業評価に活用できる仕様になっているとはいえない。回答者の属性に依存しすぎている。回答者の自己の属性に関する(自己)診断情報も捨った上で、評価項目との相関を分析すべき。(問 2. A, 問 3. C)
- ・学生の科目選択と講義内容量と評価基準の標準化、あるいは科目間比較がなければ、数値だけの評価に落ち込んでしまう危険がある。(問 2. A, 問 3. C)
- ・精神的に苦痛(問 2. A, 問 3. C)
- ・学内限定は無理。blog, facebook, twitter などで必ず外部にでる。学生のネットワークは強力。そもそもフィードバックの意味がわからない。(問 2. A, 問 3. C)
- ・形式的にそういうことを行って、意味はあるのか。学生は評価結果を活用するのか。評価設計は、結果の活用について、検討してから行うべきでは?(問 2. B, 問 3. C)

#### その他

- ・評価結果が一時的である可能性もあり、対応して改善されているのなら、十分にアンケートに興味があったと思われる。それでも改善されないなら、公表もあり得るかもしれない。(問 2. A, 問 3. C)
- ・FD の精神に反する。嘆かわしい設問である。

#### 問 4. その他、本学の FD 活動へのご要望があればお聞かせください。

##### ホームページ

- ・武蔵大のインターネット・サイトに FD のページも作ったらどうでしょう。授業改善の取り組みと、学生さんの評価についても概略を公表しても良いのでは？（問 2. A, 問 3. A）

##### 授業評価の意味と方法

- ・授業内容は、一般的な学問水準を基礎として組み立てられている部分もあるので、学生の評価を過度に重視するような FD 活動にならないように配慮してほしい。（問 2. B, 問 3. C）
- ・具体的に改善点の見える設問を設定して欲しい。自由記述の検閲をやめてほしい。おかしなことばかりだ。（問 2. B, 問 3. C）
- ・やりがいのある、意味のある（学生にとって）評価でなければ、正確にアンケートに答えてくれないと思います。（問 2. A, 問 3. A）

##### 研修会

- ・研修会をもっと増やしてほしいです。自分の授業の改善方法や他の先生方の成功例などを聞く機会がほしいし、話し合う場がほしいです。（有志だけで集まる会でもいいです。）（問 2. A, 問 3. A）
- ・今後も学問間の情報交換を促すような機会を設けてほしい。（問 2. A, 問 3. A）
- ・情報共有に留まり、問題認識と解決に進まない点に不満（講演会形式の限界）（問 2. A, 問 3. A）

##### その他の FD 活動の可能性

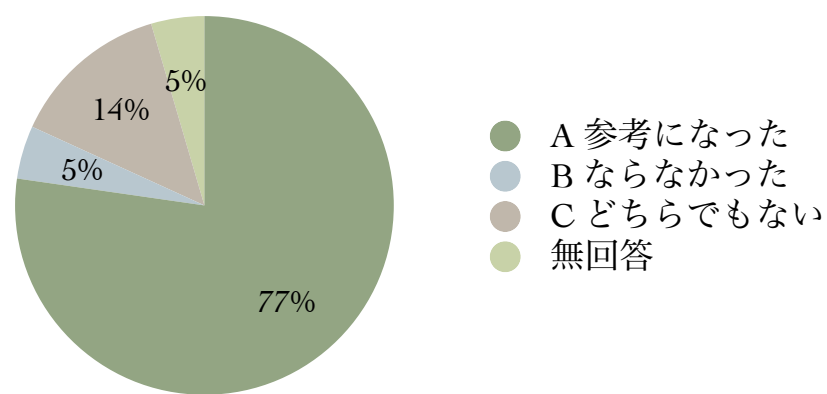
- ・他大学の FD 活動の状況を調査した上で、未着手のことがあれば着手を検討する、というステップを踏む必要があると思います。（問 2. A, 問 3. A）
- ・各教員の教育スタイルの幅の広さを、尊重してほしい。学生との面接という手間のかかることも実施して、本音を引き出してほしい。（問 2. A, 問 3. C）

##### その他

- ・ゼミの武蔵といいながら、自然科学教員の実験実習などは、興味をもったの参加はあるのだけれど、学生の真の専門ではないので、なにかいつも物足りなさを感じている。専門とつながるようなテーマを考えたいとは思っている。（問 2. A, 問 3. C）
- ・多忙な中、ご苦勞多いと思いますが、（問 2. A, 問 3. B）
- ・興味深い企画をありがとうございました。（問 2. A, 問 3. B）

# 武蔵大学FD活動についての教員アンケート 集計結果

問1. FD研修について



問1. FD研修会について

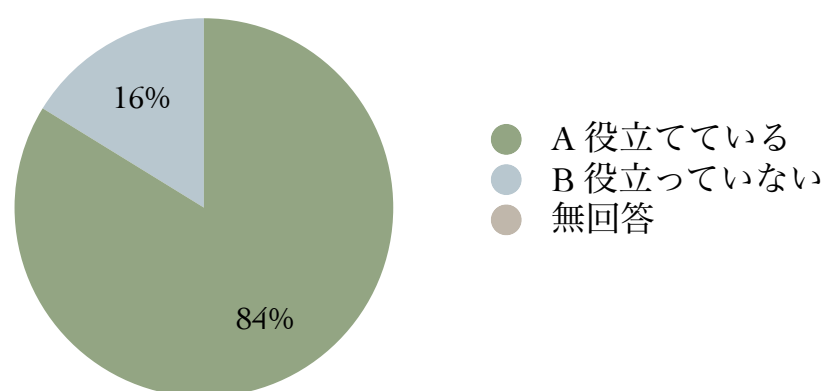
カテゴリ	人数
A 参考になった	17
B ならなかった	1
C どちらでもない	3
無回答	1
合計	22

専任教員数と研修参加数

	専任教員	研修参加	参加率
経済学部	38 (3)		
人文学部	43 (4)		
社会学部	21 (2)		
基礎教育センター	10 (0)		
教職課程			
外国語教育センター			
合計	112 (9)	40	38.8%

※ ( ) 内はサバティカル数

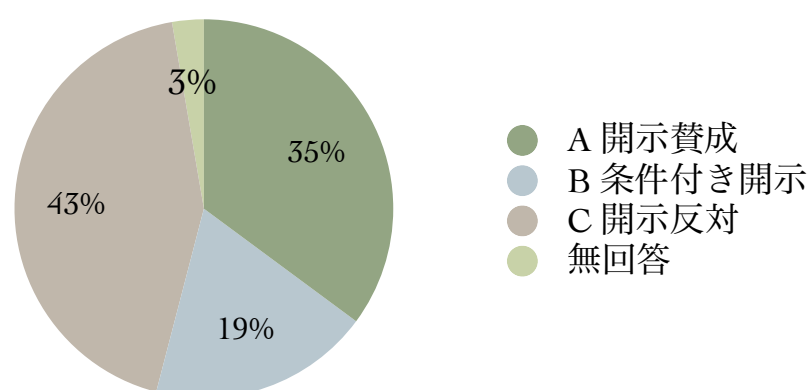
問2. 授業評価アンケートについて



問2. 授業評価アンケートについて

カテゴリ	人数
A 役立っている	31
B 役立っていない	6
無回答	0
合計	37

問3. アンケート個別結果の開示の賛否



問3. アンケート結果の開示賛否

カテゴリ	人数
A 開示賛成	13
B 条件付き開示	7
C 開示反対	16
無回答	1
合計	37

## 記述項目の要約

第1回FD研修会 に関する回答	参考になったという意見が多数であった。その理由としては、他学部の授業、ゼミ運営に関する具体的な方法、初年次教育、社会人基礎力、e-learningの使用法などが興味深かった、などがあった。
	時間配分に関して、もう少し発表を長くしてほしい、もっと研修会を増やしてほしいという声が多かった。
	奨学生のレポートは参考になるので、今後も要約を配布してほしいという声があった。
授業評価アンケート に関する回答	授業評価アンケートは授業改善のために利用しているという声が多かった。
	授業評価アンケートの授業別結果に関しては、公表賛成と反対はほぼ同数であった。
	賛成の場合も、個々の教員の承諾を前提とするなどの条件をつけるべきという意見があった。
	反対意見としては、学生に迎合するようになるという弊害もあり、授業改善につながらない、質問内容が不適當、不真面目な回答も多い、反論、対話の機会がない、単位の取りやすさなどが見えてしまう、などがあった。
	実施時期が学期末はよくないという意見が多かった。
	年間2回のアンケートは多すぎるという意見があった。
	アンケートの質問項目について、問が状況に合致しない場合がある、私語に関する項目ほか、には問題がある、などがあった。